

チェルノブイリ通信



発 行 チェルノブイリ支援運動・九州 事務局
 連絡先 〒807-0052 福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16(株)ウインドファーム内
 T E L ・ F A X 093-203-5282
 E-mail jimu@cher9.to
 URL <http://www.cher9.to/>
 郵便振込口座 01770-1-65328 チェルノブイリ支援運動・九州



チェルノブイリ原発事故から15年

- * 『～原発事故から15年～チェルノブイリからの報告』開催に向けて
- * 発行から4年、もう一度振り返る
作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」
- * 作文集の作者たちは今・・・リュドミラ・チュプチクさんの紹介
- * 現地を訪れる意味 チェルノブイリストディーツアーの思い出

チエルノブイリ原発事故15周年企画

『～原発事故から15年～チエルノブイリからの報告』開催に向けて

一本の糸つなぐ チエルノブイリ支度と脱原発の想い

新しい時代の市民運動の「風」を感じてください。

ゲストの紹介

子どもたちの心のケアに取り組む

2度目の来日 リュドミラ・ウクラインカさん



させ、今もなお慢性的な医薬品の不足に
あえいでいる。

ゲストの一人、リュドミラ・ウクライ
ンカさんは、十五歳のとき甲状腺ガンを

経験した。その際に非常に深い心理的シ
ヨックを受け、人生の転機を迎えたと話
す。発見から手術までの期間も短く、何
も分からぬまま手術台へ上がり、麻酔(まざい)
をかけられて次に意識が戻った時、彼女
の喉元には大きな傷跡が残つてい
た・・・その体験をリュドミラはこう語る。

「何が起こつたのか理解できず、た
だ悲しくて仕方なかつた。両親も兄弟
も誰も私の悲しみを和らげることはで
きなかつた。悲しみと怒りをどこへも
ぶつけることができず、自分自身を呪(の)

ルノブイリ支援運動。九州ではベラルーシ共和国の人びとを招(まわ)き、日本各地での報告会を企画する。会場は東京、京都、広島、鹿児島、宮崎、大分、佐賀、福岡の八カ所で予定。開催には、各地の会員の方以外にも、大地・原発とめよう会やプルトニウム・アクション・広島、反原発ネット串間、原発いらん!下関の会など長年にわたり反原発運動に関わってきた市民団体や、細川弘明氏(現佐賀大学農学部、四月より京都精華大学環境社会学科教員)、アイリーン・スミス氏ほか多くの方が関わって下さっている。九州では、佐賀の玄海原発、鹿児島の川内原発、宮崎で建設中の

小丸川揚水発電ダム(詳細は<http://www.mnetne.jp/~aokys/>)など、反原発運動が盛んな地域で開催される。鹿児島会場で名乗りを上げた串木野市・阿久根市は、ともに川内市の隣町。阿久根市では川内原発三号炉増設に最初に反対した市議会があり、串木野市ではベラルーシからのゲストと共に市長表敬訪問を予定している。それぞれの地で、原発に関心の高い市民の方々とリンクする形で報告会の準備が進められる今回の企画は、チエルノブイリ支援と日本の脱原発運動に関わる人々の間を、ちょうど一本の糸でつなぐ形になっている。「チエルノブイリを忘れない」。そんな想いを紡ぐように、報告会の準備は着々と進んでいる。

ベラルーシ共和国では、事故後広大な大地に降り注いだ放射能が原因で、甲状腺ガンが多発、特に事故当時、成長期にあつた子どもたちの間で、小児甲状腺ガンが急増した。医療技術の遅れや経済混亂は被害をさらに拡大

させ、今もなお慢性的な医薬品の不足に
あえいでいる。

「ことだと気づいた。その後、私ならば同じ境遇の子どもたちの心を理解してあげることを決めた。」

リュドミラさんはその後、ミンスク教育大学で医療心理学を学び、現在では暴力を受けた女性や手術後、心の傷の癒えない子どもたちのケアに当たっている。



リュドミラさんは子どもたちとのカウンセリングを通して心のケアを行う。

ゲストの紹介

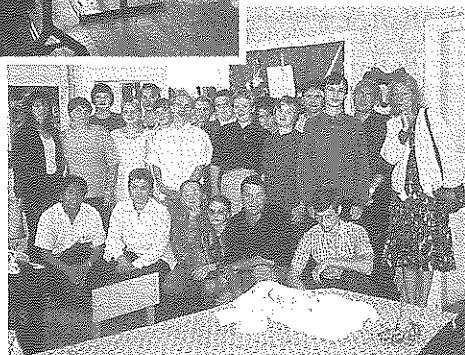
創作を通して、自立を目指す

工房「のぞみ」ナターシャ・ステファン夫妻 スタッフ エレーナさん



害を持つ人々も受け入れ、刺繍、木工製品や芸品、洋服などを生産し町の店舗で販売。さらに日本でもCherノブイリ支援運動・九州を通して販売され、多くの人に親しまれている。

この工房「のぞみ21」に起こったCherノブイリの悲劇は、この工房の設立に力を尽くした息子オレグの死だつた。一九九五年の冬、甲状腺ガンが肺に転移していると分かつたときには、すでに手遅れだつた。悲しみに暮れるステファンとナターシャだつたが、オレグの残した思いや「この場所で一緒に仕事したい」と望むスタッフの声に支えられ、今も「のぞみ21」の創作活動は続いている。



い、そのため働く場所を得ることができない若者たちのための工房として設立した。現在では、チエルノブイリの被害者に限らず、心身に障

『～原発事故から15年～Cherノブイリからの報告』

全国スケジュール（詳細はp4・5）

- 【東京】4/14(土) 明治学院大学白金キャンパス2号館2階2301号室
- 【京都】4/16(月) 京都精華大学（叡山電鉄鞍馬線精華大学前下車）
- 【広島】4/17(火) 広島留学生会館（JR広島駅から徒歩5分）
- 【鹿児島】4/20(金) 国民宿舎串木野さのさ荘ホール（JR串木野駅から車で5分）
- 【鹿児島】4/21(土) 阿久根市漁協ホール（JR阿久根駅前）
- 【宮崎】4/22(日) アクティブセンター串間（JR串間駅徒歩5分）
- 【大分】4/24(火) 小楠小学校で交流会
- 【大分】4/24(火) 新博多町交流センター
- 【福岡】4/25(水) 浅川中学校で交流会
- 【佐賀】4/26(木) 唐津市民会館大会議室（JR唐津駅徒歩10分）
- 【福岡】4/28(土) 福岡市女性センターAMICA大ホール（西鉄大牟田線高宮駅下車スク）

二十四歳のリュドミラや「のぞみ21」のステファン、ナターシャ夫妻の姿から私が感じるのは、Cherノブイリと直面せざるを得なかつた経験を乗り越え、希望を持ち明日へと生きるその「強さ」です。地道な医療支援活動に取り組む中、ベラルーシの医療スタッフの熱意や彼らたちの声は、私たちにとつても希望の光のようなものです。
二〇〇一年四月二十六日、世界はCherノブイリ原発事故から十五年目を迎えます。ぜひ一人でも多くの方と、Cherノブイリからの声を共有できればと願っています。

（事務局 寺嶋 悠）

すべてのお問い合わせは

Cherノブイリ支援運動・九州

TEL/FAX 093-203-5282

〒807-0052福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16ウインドファーム内

Email jimu@cher9.to Website <http://www.cher9.to/>

事務局より

原発事故から15年 Chernobylからの報告会 各地での報告会スケジュール

※資料代・入場料を頂く会場もありますので事前に各窓口へお問い合わせ下さい。

① [東京]『脱原発の文化へ～ Chernobylから15周年を迎えて』

4/14(土) 13:00～17:00

明治学院大学白金キャンパス2号館2階2301号室（品川駅バス10分）

共催：ナマケモノ俱楽部、大地を守る会 ほか

●tel/fax 03-3638-0534 (馬場) tel/ 03-3402-8841 (大地を守る会)

●内容：脱原発の概況（西尾漠/原子力資料情報室）、現地からの報告、パネルディスカッション

～脱原発のライフスタイルを考える～（萱野茂、藤村靖之、辻信一ほか）

●Chernobylの現状を共有し、原発に頼らない暮らしのイメージをつむぎ出す、そんな集いです。

皆さまのお越しをお待ちしています！

小池裕三(こいけ・ゆうぞう／大地を守る会)

② [京都] アイリーン・スミス氏、細川弘明氏も参加予定。

4/16(月) 京都精華大学 (叡山電鉄鞍馬線精華大学前下車)

●tel/ 093-203-5282 (支援運動・九州事務局)

●実はリュドミラには、前に来日した99年に一度会っている。僕は彼女の話を聞き、大変な現実を知ると同時に、希望を失わず前向きに生きる彼女たちの凛とした表情が印象に残っていた。僕のいる環境社会学科は、生活者の立場から環境問題を考えていく姿勢をモットーのひとつに新設された。15年目を迎えたChernobylの現地で暮らす人々の声に耳をかたむけることは、僕らにとっての原点とも言える。非常に困難な現実とそこで生きる人々の話を、若い世代の学生たちをはじめ、多くの人たちと共に共有できることを願っている。

細川弘明(ほそかわ・こうめい／京都精華大学環境社会学科教員)

③ [広島]

4/17(火) 18:30～20:30 広島留学生会館 (JR広島駅から徒歩5分)

共催：Chernobyl支援広島医療協議会、広島セミパラチンスクプロジェクト、プルトニウム・アクション・ヒロシマ

●tel/fax 082-246-7636 (山田)

●Chernobylの現状を知るためにには、現地で懸命に生きる人々と出会い、その事と問題をともに受けとめなくてはなりません。今回、訪れるペラルーシからのゲストは、これまで私がロシア語の医療通訳として関わってきた人のなかでも、とても印象に残っている人々です。この度の報告会が、Chernobylを再認識する場となり、さらに豊かな人のつながりを生みだす場になることを祈っております。

山田英雄(やまだ・ひでお／支援運動・九州顧問、Chernobyl支援広島医療協議会)

子どもたちとの交流への願い【北九州市八幡西区・浅川中学校、大分県中津市小楠小学校】

子どもたちには、「百番目のサル」になってもらいたいと願っています。人を思いやり、自ら考え、自ら行動できる人に成長していくためには、多くの人と、いろいろな背景をもった人と、顔をつきあわせて話をする場が必要です。4月のリュドミラさんとの会は、子どもたちに多くの力をもたらしてくれるものと信じています。

貞池和恵(さだいけ・かずえ／北九州市立浅川中学校教諭)

⑦ [大分・中津市]

4/24(火) 19:00~21:00

新博多町交流センター

(中津市新博多町TEL/0979-24-2507)

●主催：草の根の会

●tel/0979-22-1703 (松下)

●1986年春、私は同志たちと共に「なかつ博」に「非核平和館」を出展し、核兵器と原発の廃止を訴えていた。その会期の終わり近くに起きたのがチェルノブイリ事故で、そのときの衝撃は忘れられない。

それから15年。いまも苦しむ現地からの声を聞いて、反原発の思いを新たにしたい。

松下竜一(まつした・りゅういち／草の根の会)

⑧ [佐賀・唐津市]

4/26(木) 19:00~

唐津市民会館大会議室
(JR唐津駅徒歩10分)

●共催：チェルノブイリからの報告実行委員会

●tel/ 0955-75-4348 (尾原)

●チェルノブイリ原発事故は、私たちに原発が存在することの恐怖を教えてくれました。最低最悪の原発と原子力政策にSTOPをかけ、自然エネルギーと燃料電池に切り替わるために、私たち市民の声を大きくしていくことも重要なカギだと考えます。依然として原発推進の日本で、この報告会を行うことは、大変意義のあることだと思います。

尾原美智子(おばら・みちこ／からつ環境ネットワーク代表)

⑨ [福岡]

4/28(土) 18:30~20:30

福岡市女性センターアミカス

(福岡市南区高宮 西鉄大牟田線高宮駅下車すぐ)

●tel/fax 093-203-5282

(チェルノブイリ支援運動・九州事務局)

●チェルノブイリ支援運動・九州が発足し、福岡に事務所を構えて11年になります。以来さまざまな人びとに支えられ、他の市民運動・NGO(非政府組織)と連携し、共に歩んできました。たった一度の事故による被害は、あれから15年立つ今もなお続いています。チェルノブイリから届く声に耳を澄まし、いつもご支援を下さっている多くの会員の方と共有できることを願っています。ぜひご来場下さい。

矢野宏和(やの・ひろかず／チェルノブイリ支援運動・九州代表)

●すべてのお問い合わせは・・・

チェルノブイリ支援運動・九州 TEL/FAX 093-203-5282

Email/jimu@cher9.to 〒807-0052福岡県遠賀郡水巻町下二西3-7-16ウインドファーム内

④ [鹿児島・串木野市]

4/20(金) 18:30~

国民宿舎串木野さのさ荘ホール

(JR串木野駅から車で5分)

●tel/ 0996-32-2915 (友愛幼稚園／藤田)

●串木野では2月末現在、隣市の川内原発3号機の増設を前提とする環境影響調査の是非をめぐり、近隣市長村としての答えをまだ市長が出されていません。増設となれば世界最大級150万kwの原子炉が建設されることになります。子どもたちの未来の為にもぜひやめてほしいと願い、陳情や署名等に励んでいます。

チェルノブイリから15年目、だんだん人の記憶からも遠ざかりつつありますが、チェルノブイリの方々の被害と現状を串木野の人々が知り、また交流できればと願っております。

藤田はっぽ(ふじた・はっぽ／友愛幼稚園教諭)

⑤ [鹿児島・阿久根市]

4/21(土) 14:30~

阿久根市漁協ホール (JR阿久根駅前)

●tel/ 0996-72-0431

(めぐみ幼稚園／輿水正人)

●原発増設で大きく揺れている川内市では、大規模な災害訓練が行われました。しかし、隣接する阿久根市には放射能はありませんのでどうか。川内のような訓練はありません。万が一の場合、阿久根市の市民はどこまで守ってもらえるのでしょうか。阿久根市と議会は、県内で最初に増設反対を打ち出した。その勇気ある町で、今回の報告会は大変意義があることだと思います。多くの方々に原発事故の怖さを知ってもらえばと思います。

宮田成男(みやた・なるお／草の根市民講座)

⑥ [宮崎・串間市]

4/22(日) 15:00~

アクティブセンター串間

(JR串間駅徒歩5分串間市文化会館隣り)

●tel/ 0987-75-1385 (竹下主之)

●「チェルノブイリ」からの串間への訪問は3回目になります。串間の原発問題も9年目になり、昨年11月当選の市長が「原発に頼らない市政をめざす」と議会で答弁するまでになりました。世界が脱原発に向かう今、現地のみなさんの「悲惨な生の声」が日本の多くの方々に「核事故」の現実を伝え、また交流も深まることをみんなで期待しています。

竹下主之(たけした・ちかゆき／反原発ネット串間、串間市議)

発行から4年、今一度振り返るあの作文集の意味

作文集 子どもたちの Chernobyl

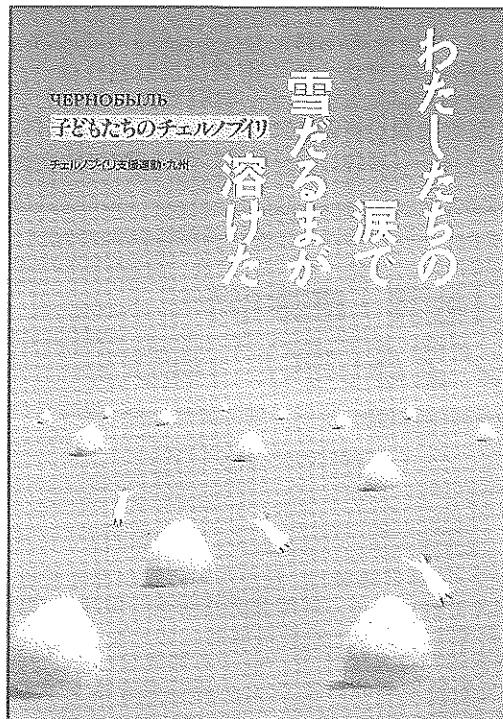
「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」との出会い

その際に、翻訳を担当したのが菊川憲司さん（チエルノブイリ支援運動・九州）である。恐らく、日本で最初にこの歴史的な作文集に触れた人物であることは間違いない。

独り、原文を読み解きながら、何を想つたのか。

そして、過酷な状況を描く幾つもの作文のなかで、一番印象に残つたことは？

チエルノブイリへの支援には絶対に欠かせないロシア語通訳として、長年、支援活動に取り組んでいる菊川さんからの、作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」との出会いのレポート。



今、ベラルーシで活躍するワゴン車「雪だるま号」の名称の由来は、チエルノブイリ支援運動が出版したベラルーシの子どもたちの作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた・子どもたちのチエルノブイリ」からである。

この作文集のなかで多くの人に感銘を与えたのが同名の作文（二一六頁）であった。かくいうわたしも、ベラルーシから送られてきた分厚い原稿のなかで翻訳していく一番感銘を受けた作品であった。ベラルーシの作文コンクールの委員会でも同様の評価を得たそうである。次にこの作文を簡単に紹介しよう。

死の一ヶ月前からの手記

少女の死の一ヶ月前から日記の形で彼女の心理状況を描いたものである。少女ナーナ・ジャヤは腫瘍専門病院に入院している。そこでは、チエルノブイリの放射能の影響でガンにかかり苦しんでいる多くの子どもたちが入院していた。春も近い雪が降つたある日、男の子が雪だるまを作つて女の子の病室にもつてきた。そこには「最後の雪です」とのメッセージが書いてあつた。それを見て女の子たちは泣いてしまつた。

そこの病院では次々に子どもたちが死んでいく。そしてこのナーナ・ジャヤも体力がおちていくのを自覚し始める。まわりも彼女にたいして哀れみの態度を取り始める。しかし医者は、回復したからじたりょうよう住宅療養をするようにといつた。ナーナ・ジャヤは退院し、その二〇日後



文・菊川憲司
(チエルノブイリ支援運動・九州、顧問)

に自宅で死んだのである。

この作文には民話が挿入してある。領主から脱走し殺された少女が死んだ場所に生えたナシの木があつた。そのナシの木は Chernobyl の放射能の汚染の理由で切り倒された。この国の子どもたちを抽象化しているのだろうか。

日記は生へのあこがれがいたるところに満ちあふれている。死の寸前まで生きようとする力がみなぎっている。

多くの人がこの作文集の

編集や出版に協力した

この作文集は一九九四年春にベルルーシの Chernobyl 同盟が教育省の協力のもとに全国の中学生を対象に「私の運命の中の Chernobyl」というテーマで作文コンクールをおこなつた。応募してきた五〇〇を越える作文の中から選んで出版したものである。日本語版はベルルーシとほとんど同時に出版された。その後、英語版、ポルトガル語版が出版されている。

作文集の翻訳、編集作業に多くの人が参加した。このようないいことも出版の世界では珍しい。ベルルーシ語版の作文の数は多く、半分にしないとあまりに費用がかかるため、作文を選考する作業が必要になつた。それを多くのひとに原稿の段階で選

んでもらつたのである。神奈川のある高校のクラスでは全員で読み、ランク付けをしたそうだ。

う状況下で私たちが出来ることは限られている。ベルルーシの人々の力に少しだけでもなりたいものである。

反原発の大きな力と、

若い世代の運動への参加

日本語版は多くのみなさん之力で一万部が売れた。原発立地の串間では一〇世帯に一冊の割合いで広がつたそうである。当時、原発誘致か反対かで揺れていた串間市長選挙で、反対の意志を表明した候補が勝つたのもこの作文集の影響かもしれない。

出版で一番良かったことは支援者が多くなり、運動を支える若いスタッフが増えたことである。Chernobyl 支援運動はまだまだ続けなければいけない。それこそ子々孫々にまで伝えてゆかなければいけないことである。

この作文集は子どもたちの歴史の証言の書である。Chernobyl の原発事故の影響を見たまま聞いたままを書き残している。そして生への渴求を表明しているのである。私が翻訳をしていて強く感じたのもそこであつた。

Chernobyl の原発事故はソ連崩壊の一つの原因であつたかもしれない。ソ連の崩壊はベルルーシにも経済的困難をもたらした。原発事故の放射能汚染も経済社会的危機を増幅させた。こうい

今一度、本書を多くの人々によんでもらいたいものである。

作文集が発行されて五年が過ぎた。作文を書いた子どもたちはもう青年である。彼らの世代は幼時に受けた被曝のリスクをおつて生きていくことになる。しかし作文に書いた生への渴望は持ち続けている。しかしこれがいつまでも持続するに違いない。

作文募集

～テーマ～

「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」との出会い

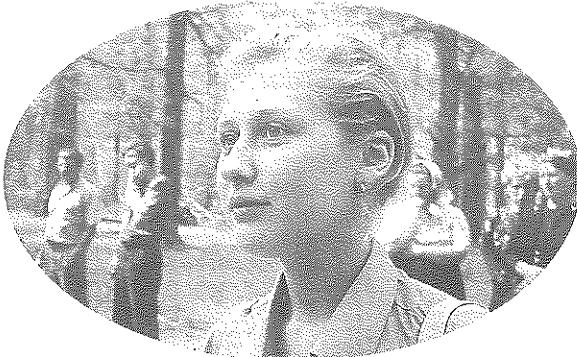
Chernobyl 支援運動・九州では、今一度、作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」が私たちに投げかけているメッセージを受けとめるために、上記のテーマについての作文を募集しております。

作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」を読んで考え、想したことなどについての作文を、1000字から2000字までの間にでお寄せ下さい。

詳しくは、Chernobyl 支援運動・九州 事務局まで

TEL/FAX 093-203-5282

わたしたちの涙で雪だるまが溶けた 作文を書いた子どもたちの今



作文「私は生きる」の作者 リュドミラ・チュプチクさんとの出会い

文・矢野 宏和

(チェルノブイリ支援運動・九州、代表)

はじめて原子力発電というものの恐ろしさを感じたのは、高校二年の春。「危険な話（広瀬隆・著）」を読んだときだつた。地球の、というよりか自分自身の将来について、あれほど絶望したことはなく、どうしたらいいのか分からまま無気力な気持ちになり、「読まなかつたことにできなかな」などと思つたりした。

作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」を手にするのは、それから七年後のことになる。その内容が衝撃的なものであることはすでに人づてに聞いており、作文集を読むときには、これから襲つてくるショックを予想して緊張していた。

そうして、たまたま開いたのが、一二九ページだつた。そこには可愛い少女の写真と、「私は生きる」という題目があり、「ここにちは。私の知らない友よ」という明るい呼びかけで文章が始まつていた。

「これなら読みそうだ」と、私はその後の文章を追つた。

一番、印象に残つたのが、次の一文だつた。「（中略）恐ろしいことに、 Chernobyl は、私の人生に、私と同じ年頃のひとや、ベラルーシの全ての人々の心と体の中に姿をひそめ、長期間にわかつて、困難で、厳しい試練を与えるでしょ。神様、この試練も、宇宙の生きとし生けるものの義務なのですね。その全て

が、神様の光、善、太陽に近づくためのものと信じて生き続けます」

作文で描かれている彼女の自然や故郷への想いのなかで、その一文にたどり着いていた高校二年の自分を思いだせます。さらに、十四歳という年齢が、原発の問題を知らなかつたことにしようとしていた高校二年の自分を思いだせる。

彼女の作文の多くは、愛してやまない森と故郷の描写に費やされる。登場する植物の種類は多様で、情景描写からは、そこに漂う香りや、風の匂いまで感じさせる。

散歩を楽しむかのようなテンポで進む文章はしかし、その森に、「禁止区域」、家畜の放牧、キノコ狩り、イチゴ狩りは絶対にしてはいけません」と書かれた異様な立て札が現れるところから急転する。そこもまた、放射能に汚染されていたのだった。

だが、彼女はそこを、「約束の大地」と言ふ。また、「小さな祖国」とも言い、「始まりの始まり、人生の喜びと、私をどうぞ」と聞くと、静かにうつむいた。実家には毎日のように電話をしているといふ。

いざれ訪れるであろう帰郷の日は、彼女にとつて夢の実現を意味する。「グリシコビツチ村に戻り、その母校の教壇に立つことが私の夢です」と彼女は語つてくれた。

評価を得て、一九九五年には、来日。ま

た、その翌年行われたスタディーツアード、日本の多くの若者が彼女の村を訪れ、交流の場を持つことができ、いつしか、彼女と日本のつながりは深いものになつていた。

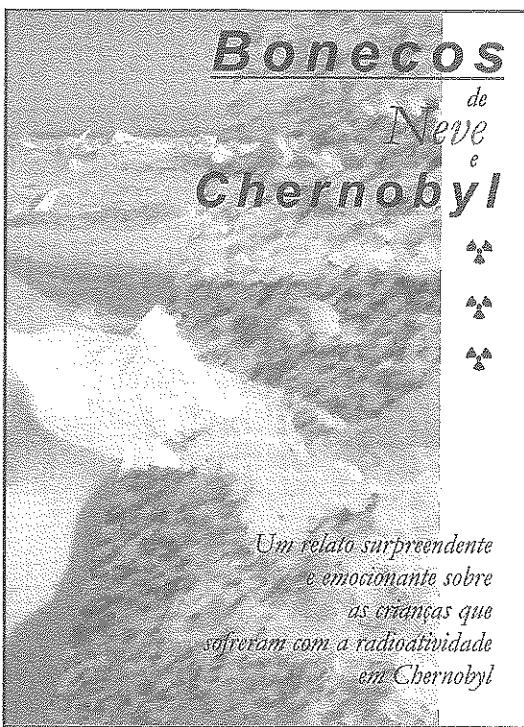
日本に来たとき、「日本は確かに豊だけど、私は自分の村が好き」と語つっていた。ホームシックになるほどではなくても、彼女の胸中には、故郷の村と、そして豊かな森が広がつていたようだ。

彼女は今、その愛してやまない故郷を離れ、首都ミンスクで生活している。はじめは、医者になりたいと思つていたが、その望みは叶わなかつた。彼女が選んだ道は、教師。現在は、ミンスク国立教育大学の学生だ。

一昨年の夏、私はミンスクで彼女と会うことができた。都会での生活も随分なれた様子だつたが、やはり、「故郷の森が恋しい」という。ミンスクでも少し郊外に出れば豊かな森はあるが、「この森ではダメ?」と聞くと、静かにうつむいた。

いざれ訪れるであろう帰郷の日は、彼女にとつて夢の実現を意味する。「グリシコビツチ村に戻り、その母校の教壇に立つことが私の夢です」と彼女は語つてくれた。

ラジルで発行。作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」のポルトガル語版。この本は、チエルノブイリ支援センターでおなじみの株式会社ブラジル事務所代表の牛渡クラウジオ剛さんを中心とするボランティアたちにより出版された。以前に出版しているタツチの表紙に描かれた世界



たポルトガル語版第一版が完売して後、ぜひ第二版をとの周囲からの期待の声に応えての出版だつた。

内容は、子ど

もの作文や写真などの他、チエルノブイリについての解説などを新たに加わり、ベラルーシから遠い

版の作文集を読みました。チエルノブイリに生きる子どもたちの声を聞いて、私はあふれる涙を止められませんでした。故郷を愛しベラルーシで生きてきた子どもたちが、やるせないほど

の思いでチエルノブイリを見つめいました。希望を失わず生きる子どもたちの姿と、悲惨な事故の現実とのギャップが、私の心に染み入るようでした。

タツチは、羽根のようにも見える。雪影の薄紫が、光を反射し輝く雪の白と混じり合い、静けさのなかの決意めいた厳しさを感じる。

私は偶然、昨年春、牛渡クラウジオ剛さんと、表紙デザインを担当したノエリ斎藤さんにブラジル・クリチバ市の空港で一緒に、表紙デザインの由来を聞くことができた。

ノエリさんは長い髪とやわらかな笑顔が印象的な、ブラジル生まれの若いデザイナーだった。

『雪だるま』の本は現在、ベラルーシ語のほかロシア語、ドイツ語、英語、日本語、ポルトガル語に訳され、多くの人にふれている。作文集の出版を通して、多くの人がチエルノブイリと出逢い、つながりが広がっている。牛渡クラウジオ剛さんは、ポルトガル語版『雪だるま』のあとがきをこう結んでいる。

「スリーマイル島、チエルノブイリ、東海村。原子力の使用がこれらに次ぐ悲惨な事故を起こさないと、一体誰が保証できるだろうか。」

(文事務局 寺嶋 悠)

が溶けた』は、ポルトガル語で『Bonecos de Neve Chernobyl』「雪だるまとチエルノブイリ」と訳されている。表紙は、一面の雪原の写真が中央を斜めに走る線を堀に一転し、荒いタツチの油絵風の雪原の姿に変わ



ポルトガル語版作文集の表紙をデザインしたノエリ斎藤さん

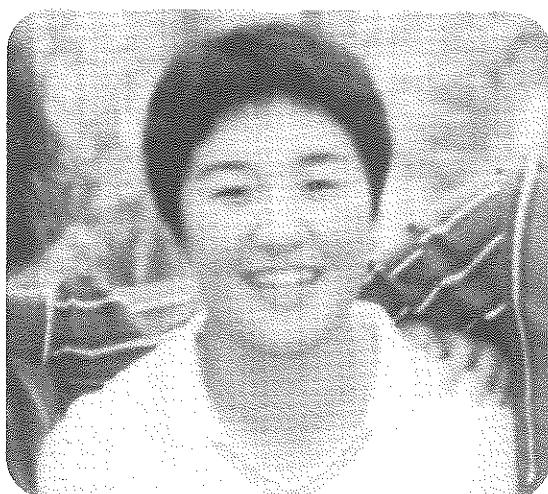
「ベラルーシの旅」から5年

にしの
西野　自由里さんにとっての、あの旅は・・・

チエルノブイリへのスタディーツアーから五年が経ちます。

ツアーパートナーにとって、実際にチエルノブイリの被災地へ行き、人と出会うことは、大きな意味を持っています。時の経過とともに、あの旅の思い出は、どう移り変わり、今を生きるなかで、どんな力を持っているのか。

ツアーパートナー、まだ高校生だった西野自由里さんの今をお伝えします。



父の「生きたお金を使って来い」との言葉から、行けるようになつたスタディーツアーパートナー。あれからもう五年が過ぎた。

当時十六歳の私にとって現在進行中のチエルノブイリを見に行くことは、机上、もしくは本でしか知りえなかつた二次元での事故を、よりリアルな三次元の事故として見に行くという意味があつた。まだ小さなころ、おぼろげながらにチエルノブイリとその、デッドゾーンの存在を知つたとき、地球上にそんな悲しい場所があるということに衝撃を受けた。そして、その旅で実際にその地を歩き、惨状を感じ、その空気を吸つてきた。たつた三分しかその場にいることは許されなかつたが、それ以上の多くの学びがあつた。

チエルノブイリは想像を越えたあまりにも大きな惨事だったので、日本にいるだけでは、ありのままに信じることができず、リアリティーもなかつたが、確かに数年前まで人々が生活していた臭いを感じることで、現実としてのチエルノブイリ、そして、生活している人々に降りかかつたチエルノブイリを、垣間見ることができた。

一見すがすがしいほど凜とした空氣の中でたわわに実るりんごの木。廃墟と化した家に落ちていた息子から母への健康を祈るバラの絵葉書。そのりんごの木が、そこまで大きくなるまでの歴史と時間。健康を祈る手紙を書いた息子と、手紙をもらった時は元気であり、今は被爆者になつてゐるはずの母親、両者の消息。それらを考えたたゞ、チエルノブイリの罪の大きさに圧倒される。そしてそれらの情景はリアルなチエルノブイリとして多くを問うている。

スタディーツアーパートナーから帰つてきて、全国高校生交流集会といふ、一〇〇〇人規模の平和集会で、チエルノブイリとセミバラチンスクを考える分科会を開いたり、大学生になつて学園祭でチエルノブイリの子供たちの絵の展覧会を開いた。また、山口県で問題になつてゐる上関原発をめぐつての住民投票が行われる可能性も考えて、北九州市にあつた住民票を、実家の下関市に移し

た。これらの行動は、ツアーパートナーに参加しなければ、行わなかつたかもしれない。

しかし、ツアーパートナーに参加した仲間の活動を見た。これまで人々が生活していた臭いを感じることで、現実としてのチエルノブイリ、そして、生活している人々に降りかかつたチエルノブイリを垣間見ることができた。

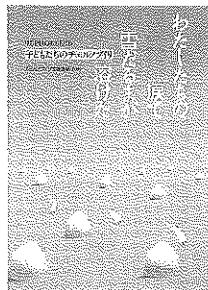
以前から看護婦として国際協力活動を夢見てゐる私は、現在、看護大の学生となり、夢に一步二歩近づきつつあるが、そういう意味で私はチャランボランになつてしまつたのかもしれない。今の私が問題意識に燃えていた中学、高校のときの私なら果たして「忙しい」という言葉にかまけていたただろうかと、疑問に思う今日この頃であつたりもある。

最後に、チエルノブイリの大地を歩き、考えるスタディーツアーパートナーは、進路の選択という意味でも、一つの大きな方向性を私は投げかけた。チエルノブイリ事故だけでなく、大地としてのロシア、ベラルーシを見てまたじっくりとこの地を見たいと思つた私は二年前にシベリア鉄道に乗りその広大な台地に少し触れてきた。そして幻影を求めるかのようにして、去年は北海道を自転車で走つてきた。そして来年私は看護婦として北海道に行く。更なる夢を追いかけつ

Chernobyl Support Movement · Kyushu Publications

Chernobyl Children's Essay Collection

Children's Chernobyl Tears of the Children Who Cried in the Snow Melted



Chernobyl's children, who experienced the disaster, wrote historical testimonies. Descriptions of death's恐怖 within the snow, separation from friends and family, and the desire to return to their beloved故郷. This book allows you to understand the残酷 reality of Chernobyl.

Price ¥1300 Shipping ¥140

Chernobyl Study Tour Report Collection

Belarus Trip

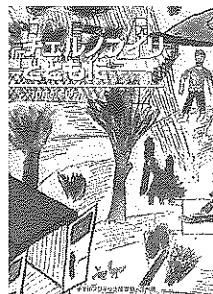


After the release of the essay collection "Tears of the Children Who Cried in the Snow Melted", many young people wanted to visit the site of the Chernobyl disaster. This report collection, which was realized through the study tour, contains travel diaries from various perspectives. There are also large-scale Chernobyl portraits drawn by tour participants.

Price ¥500 Shipping ¥140

Chernobyl Support Movement · Kyushu 10-year History

Chernobyl Together ... 10 Years of Memory



From June 1990, it has been 10 years since the formation of the Chernobyl Support Movement · Kyushu. This book整理了 10 年的活动记录。从第一次调查团的派遣到支援运动的形成，再到今日的轨迹，通过时间轴展示了10年的活动记录。包括儿童们的声音等。

Price ¥1050 Shipping ¥140

たくさんの中金を

ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

長崎県職員組合 谷村牧子 山口郁代 井上礼子 日
本キリスト教団八幡鉄町教会 広岡逸樹・綾子 古
川恵子 大園広子 北坂修 野原初五郎 坂田和子
岡部きぬ子 道山窓 有吉みどり 田中美子 森木
美樹 小出としえ 平田明子 小西順子 深堀ミチ
子 早相外科 鮎川宣子 賀来紀子 サトウ矯正歯
科クリニック 堀内隆治 大谷正穂 喜岡笙子 納
富音代 林昌子 久野マス子 中山たまき 上持秀
男・由利子 本田スミ子 早稲田矩子 橋本真奈美
栗山幸子 梶村静江 藤田一美 松下龍一 矢野光
子 山下千賀 石橋美千代 坂本悦子 永江之子
佃暁子 栗屋千恵子 諏間和子 黒岩桂子 伴信子
上野三佳子 児玉俊一・洋子 吉中澄子 若林洋子
棚町和秀 宮本カズコ 片山まゆみ 磯道綾子 福
迫愛梨・ひとみ 織田和家 村上和代 寺地志保
小林教子 山口朋子 島田美恵子 岩松繁俊 門間
幸枝 松里英男 伊東眞司 井上美由紀 友野隆裕
瀬島明正 葉祥明 岸川美好 中谷庸子 尾籠裕子
稻元幸子 堀寿子 奥平篤子 論樂社 志田原和世
柳元秀昭 桂木美由紀 川島則子 島口久美子 上
田和子 松田容子 吉田梨枝子 田中由美 田中順
子 岡田薰 脇坂みどり 三輪幸子 河野知曉 中
津和幸 大野安則・高子 篠豊互助会 高知土と命
を守る会 戸田久美子 表郷村役場総務課職員一同
澤田和子 ぼこあぼこ 白井園水車むら 柳樂翼
県職員互助会八女支会 グリーンコーピ生活協同組
合おおいた 古森順子 チエルノブイリ友の会伏見台

(二〇〇〇年十二月二十八日～二〇〇一年二月二十
三日までの募金です。通信にお名前をご紹介する許
可を下さった方、ならびにチエルノブイリ支援コー
ヒーの購入を通して活動を支援して下さった方の
み、掲載させて頂いています。)

会員のみなさまからのメッセージ

■十五年目を迎えたチエルノブイリで、今年も必要な支援を必要なところへ届けていきたいと思
います。どうぞご支援をお願いします。

八歳の娘がお年玉をカンパしたいとのことでした。
娘の名前で載せて頂けないですか。(鹿児島県)

■ありがとうございます。娘さんのお名前も掲載し
ております。小さなお子さんからの声に、一同と
ても励まされる思いです。

・いつも通信ありがとうございます。毎号上品なブルーのインクで楽しみにしているのですが、48号は少しインクが薄くやや読みづらい感じがしました。また文字ももう少し大きく読みやすいと助かります。どうぞご検討下さい。(大分県)

■大変失礼致しました。今後、字の大きさやインクの濃さにも充分に配慮し、多くの皆さまにとつて読みやすい通信としていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

・私たち二人の幸せの一部を病気に苦しむチエルノブイリの子どもたちのためにと思い、チエルノブイリ支援コーヒーを結婚式の記念品として使わせて頂きました。出席者の皆さんにもその趣旨を理解いた
だき好評でした。これからも微力ながら、皆さんの運動を支えていけたらと思っています。(宮崎市)

■ご結婚おめでとうございます。すばらしい記念日にチエルノブイリの人びとを胸におぼえていて下
さることに感謝致します。どうぞ共にお支え下さい。
■会員のみなさまからのお便り・メッセージをお寄せ下さい。ご質問もお待ちしております!

チエルノブイリ支援運動・九州

2000年度会員総会のお知らせ

- とき 2001年3月25日(日) 14:00-16:30
- ところ オリオンプラザ4F 第一会議室
(JR鹿児島本線折尾駅下車スグ)
TEL 093-691-5653
- 内容 2000年度活動報告(ビデオ使用)
2000年度会計報告
2001年度活動方針提議
2001年度予算承認
役員選出、規約改正 ほか
- 会員の皆さんほどなたでも出席できます。
どうぞお気軽にご出席下さい。
- お問い合わせ チエルノブイリ支援運動・九州事務局
TEL/FAX 093-203-5282